

第 1 回がん対策部会（乳がん対策）の振り返り

（平成 30 年 7 月 24 日開催）

1 乳がんの概要と札幌市乳がん検診の現状

(1) 資料

参考資料 1

(2) まとめ

- 札幌市における乳がんの 75 歳未満年齢調整死亡率は、全国と比較して高い
- 札幌市乳がん検診の受診者数及び受診率が低下傾向にある

2 乳がん超音波検査に対する国の考え方と札幌市の方針

(1) 資料

参考資料 2

(2) まとめ

- 平成 27 年 9 月の厚労省の検討会中間報告書では、「超音波検査が、将来的に対策型検診として導入される可能性がある。」と提言された
- 札幌市としては、国においても導入の方向で検討していることや乳がんの早期発見に資することから、超音波検査を導入する方向で検討している

3 前回の部会で出された主な発言

乳がん検診における超音波検査の併用に関する検討

- 超音波検査を併用することによって、がんの発見率が高まることは証明されているが、必ずしも死亡率の減少に直結するとは限らない。しかし、メリットの方が大きい可能性があるので、今後も十分討議すべき重要なテーマである。
- 公費を使って導入するのであれば、アウトカムをどのようなものにするか明確にする必要がある。
- 高濃度乳房に見える人で比較読影をもとに読影しづらいものは、エコーを併用する。そうすると、発見率が上がるということがわかっている。（超音波検査の対象）まずは、40 代に限って実施することは正解ではないか。

乳がん超音波検査における精度管理を高めるための研修体制

- 実際にエコーを併用するとなると、コメディカルの力に頼らなくてはいけない。
- マンモグラフィの場合、割と技術が一定で、読影の能力が落ちていなければ発見率はそれほど変わらないと思うが、技師の能力がなければ、読影力がよくても難しい。
- 技師は先生（医師）たちと違って研修に比較的参加しやすいので、年 2 回の研修でも参加していただければいいのではないか。
- マンモグラフィの場合、当初はばらつきがあるものの、研修会の効果もあり、少しずつ精度が高まっている。
- 精中機構が主催した研修で講師をされているような方が望ましいのではないか。